

災害ボランティア活動報告 (No.34)

活動場所:宮城県亙理郡山元町作田山 (被災農家: 斎藤様の農地)

活動内容:今回は、総勢 45 名でボランティアに伺いました。バス 42 名、自家用車 3 名 (メンバーの大川さんが息子さんと学生さんの 3 名で合流です。) 人数が多いので、3 班に分けての活動です。4 名の男性が稲床を作っている別のビニールハウスの所に行き、土嚢作りをしました。田植えをするさい使うそうです。

後のメンバーは、2 班に別れビニールハウス内での、収穫後の新たな作付けに向けての片付け作業、ネットを片付け、パイプを撤去しゴミを片付けます。そして、作物のため土に貼ってある黒いビニールを剥がす作業をしました。

女性陣と子供たちは、ハウスのお片付けと、外の雑草取りとガラの撤去です。

参加者:メンバー (木下史典、森本次郎、岩瀬清、芦澤潤一、榎戸孝行、大川浩明)、一般参加、ネット参加の皆様。(合計 45 名)

活動報告:『GW 親子で震災ボランティア体験』in MIYAGI、ボランティアバス第 14 弾です。今回も『ボランティアの成果が見える、足跡の見える支援』を心がけているため、被災農家、斎藤様の農地に行かせて頂きました。収穫後のビニールハウスの後片付けです。これをやらないと次の作物が育ちませんから、綺麗に片付けます。

今回一番大変だったのは、土に被せてある黒いビニール剥がしでした。

盛ってある土にビニールを貼ってあるのですが、両端が土に被せてあり、ビニールハウスが乾燥していたのか、土が土壁の様に硬くなっており、剥がそうとしてもビニールが切れてしまいます。ビニールを残さないように剥がすのはコツが要り、スコップで土を掘り返して柔らかくして剥ぎ取ります。かなり力が入り、これが重労働でした。これをご夫婦だけでやってたら大変だなと今更ながらに思いました。農作物が食べられるのも農家の方々の努力の賜物です。感謝です。

そして今回も、外国の方。ベトナムからの留学生ファム・フィン・ティエントウさんが参加してくれました。前は、別の団体ですがアメリカで結成されたハンズオン東京さんが来てくれています。異国の国のことなのに 3 年以上経っても困った人達のお役に立ちたいとボランティアに参加してくれています。本当に頭が下がる思いです。

日本人の私達も自分の国の事ですから、もっと頑張らなければなりません。ボランティアバスも、ボランティアが激減しているので、春休みや今回の GW など、子供達のお休みの日や連休でないと人が集まらなくなりました。

仮設住宅がなくなり、もう大丈夫ですよと言われる日まで頑張りたいです。

東京でも連休中、大きな地震がありました。千代田区では震度 5 弱だそうです。私の住んでいる葛飾も震度 4 もあり、また大きな地震が襲ったのかと肝を冷やしました。

いつ被害者になるか、他人事では有りません。自分が被害者になったら助けてもらいたい

はずです。

ももっと仲間が増え、多くの場所へボランティアに行けたらいいと思います。出来たら、多くの外国人の方々にボランティアをして頂いたので、外国で大きな災害が起こったら助けに駆けつけたいです。ですので、メンバー募集中です。気軽にお声をかけて下さい。Facebook や HP に手伝ってやるよと連絡くだされば有り難いです。

行程:総勢 42 名で、5 月 2 日金曜日の夜に、千葉県四街道発で、西船橋駅、錦糸町：錦糸公園経由で現地山元町へ向かいました。今回、ゴールデンウィークだったので渋滞に引っかかり遅れてしまうのではないかと思ったのですが、仮眠休憩時間はなかったのですが、なんとか間に合いました。

5 月 3 日土曜日、今回も朝食を吉野家で取りました。安いし早朝から営業しているのはここだけです。(あたり前ですが消費税の関係で値上げされていました。お昼のお弁当も 30 円値上げ。バス代、高速代とすべて値上げされています。ボラバスの参加費も多少の値上げはお願いせざるを得ないようです。)

その後、コンビニに寄ってから、いつもの建物の保存が決まった旧中浜小学校を視察しました。斉藤さんの農地のビニールハウスで自家用車組の大川さん 3 名と合流です。



※旧中浜小学校、被災当時のまま残されています。子供たちが、自分の通っている学校と同じ様な校舎が『津波でこんなになるんだ。』と話していました。当時の惨状が理解できたのかもしれませんが、それだけでも、私たちの活動が価値あるものだ実感できます。



※ベトナムの留学生トウさん、今回がボランティア 2 回目だそうです。黙々と作業してく

れました。国は関係ないですね。ベトナムは豊かではないけれど、困っている方々のお役に立とうと、トゥさんのように高い参加費を払って（ベトナムの方からすればです。）ボランティアに駆け付けてくださる方がいます。私が子供の頃、まだ日本が豊かでなかった頃は、もっと助け合いの精神が溢れていたように思います。



※今回参加された 45 名の皆さんの集合写真です。（ビニールハウス前にて。）



※ボランティア作業風景。黒いビニール剥がしが大変でした。

作業が終わり、一路帰路へ。

いつも通りスーパー銭湯（ゆっぽ）に入り、さっぱりしてから帰りました。今回は帰りの総括で、福島出身の若い女性の方が『3年経つのに自分の故郷の惨状を見るのが怖くて、今まで何かしなくてはと思っても、足を運ばなかったのですが、今回はじめてボランティアに参加し、現地を見て、被災者の方ともお話出来て、本当に良かったです。』と涙ながらにお話されていて、私も貰い泣きしてしまい涙が止まりませんでした。感動を有り難うございます。毎回、素敵な出会いがあります。次は 7 月末の予定です、宜しく願いいたします。

（文責：木下）